



新型コロナにより、3年ぶりに再開されたバス・バスターズ。人工産卵床によるバス駆除や三角網によるバス稚魚等の捕獲を実施。ゼニタナゴの稚魚も多数確認できました。

Vol.145

令和4年7月号

本格的に戻ってきたゼニタナゴ

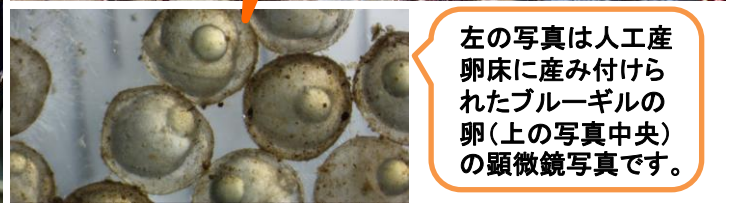


今年のバス・バスターズ活動で、合計97個体のゼニタナゴの稚魚が確認されました。財団職員のみで実施した一昨年は11個体、昨年は101個体の稚魚が確認されていますが、それぞれ1群しか確認できませんでした。それが今年は、岸辺の各所で見つかるなど、ゼニタナゴの分布の拡大を感じました。ボランティアで参加された何人もの方々がゼニタナゴを発見するなど、伊豆沼・内沼は守るだけの状況から、希少魚が普通に泳ぐ水辺へと復元しつつあります。



ゼニタナゴの稚魚

これゼニタナゴ？判別が難しい！！



左の写真は人工産卵床に産み付けられたブルーギルの卵(上の写真中央)の顕微鏡写真です。

佐沼高校と若柳小学校が体験活動

6月に宮城県佐沼高等学校と栗原市立若柳小学校の皆さんが、来訪されました。

佐沼高校の皆さんは、水生植物園などにおいて環境学習に取り組み、水生昆虫の観察やたも網による水生生物の採集を行いました。また若柳小学校の皆さんは、館内において水鳥などの生き物や、伊豆沼をとりまく環境について学びました。

地元の方も、普段伊豆沼・内沼に住む生物に直接触れ合う機会は少ないことと思います。今回の体験学習を通して、伊豆沼・内沼に興味を持って頂ければ幸いです。



佐沼高校のみなさん



若柳小学校のみなさん



水生植物園では、アサザの黄色い花が見頃です

水生植物園マップ



現在、水生植物園の観察池(左記マップ内⑤)では、アサザの黄色い花が見頃を迎えており、花は、9月一杯まで楽しめます。昨年、この池に設置した観察用栈橋からアサザを間近に観察できます。



栈橋から間近に観察できます。

伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～ セイタカシギ ～

非常に長い赤い脚と、細く長い嘴が特徴で、白黒の美しい羽色をもつシギの仲間です。

日本では春と秋に見られる旅鳥でしたが、1970年代以降関東以西で局地的に繁殖するようになり、一部地域では一年を通してみられるようになりました。伊豆沼・内沼では、数羽で時折姿をみせる旅鳥ですが、今年の春は多く、最大17羽を数えています。水辺や農地で水生昆虫類や小型甲殻類、クモ類などを食べているようです。

